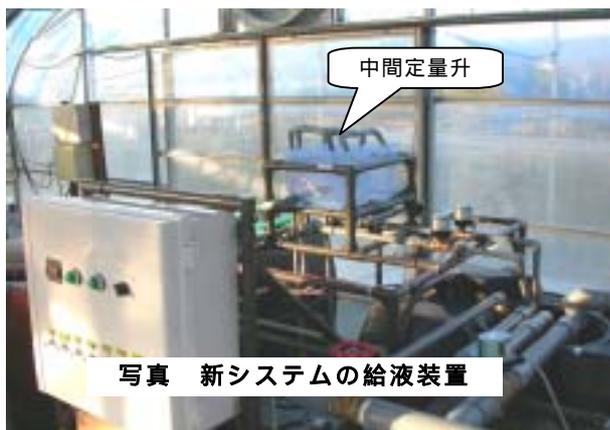


# 低コスト化を実現した新しい高知方式ロックールシステム



**新システムの特徴**

- 幅 200mm のロックールを使用
- 安価なキャピラリー点滴 1 条方式による給液
- 中間定量升による養液調製方式
- 給液、攪拌ポンプ共用方式

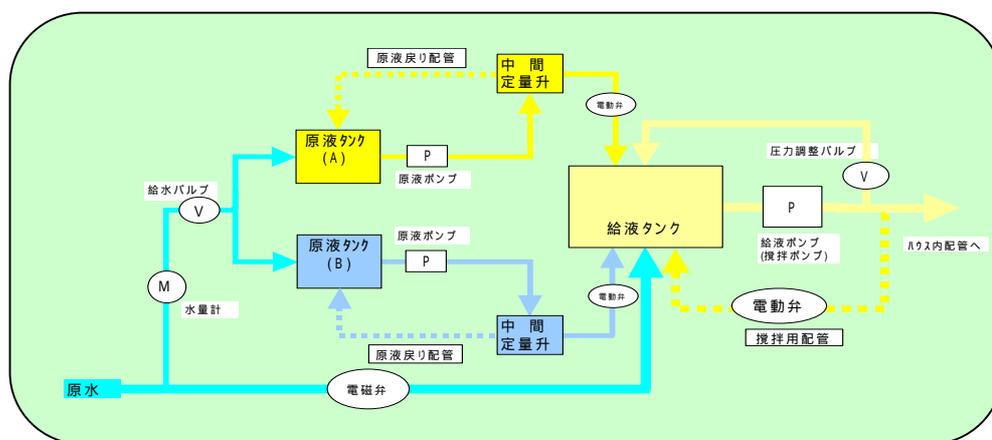


図 新システムの給液フロー

高知方式ロックールシステム(以下、現行)を改良・改善した低コストな新システム(写真)を開発しましたので、その主な仕様について紹介します。

新システムでは、ロックールの幅を300mmから200mmに縮小し、給液チューブを安価で高品質なものに変更しました。給液装置は、肥料原液を中間定量升で計量して原水と混合する養液調製方式(図)としました。養液の攪拌には給液ポンプを利用し、架台や給液タ

ンクセンサーには既製品を活用することでコスト低減を図りました。また、ロックールサイズの縮小により、栽培ベッド及び栽培ベッド用架台も軽量化されました。

新システムの価格を現行と比較すると、給液装置を自作すれば10a当たり約76万円、また市販機購入を想定しても10a当たり約59万円安くなり、初期投資額の抑制が期待されます。

(営農システム科 中村 正男088-863-4918)